

在宅医療関連講師人材養成事業（訪問看護分野）

（令和2年度厚生労働省委託事業）

【事業の目的】

地域で在宅療養者を支える訪問看護人材の確保・質向上のための研修会を企画・開催し、地域で訪問看護師の育成を担うことのできる人材を養成する。また、研修受講者の地域における活動状況を調査することで、事業の効果を検証し、地域における訪問看護人材育成の支援に活用する。

【事業概要】

検討委員会の開催（全3回）

<検討事項>

- ・研修プログラム内容および研修会開催方法の検討
- ・研修会受講後活動調査内容および調査方法の検討
- ・在宅医療関連講師人材養成事業の効果検証

研修プログラム作成および研修会の開催

<対象者と受講人数>

- ・看護師および行政職員 213名

<開催方法>

- ・講義の動画DVDもしくはオンライン動画の視聴による座学
- ・座学後に、地域ごとにグループワークを実施し、「結果記載シート」を提出

フォローアップ調査の実施

<調査対象者>

- ・本研修を受講し、グループワークに参加した、看護師158名および行政職員54名

<調査内容>

- ・地域での研修会開催や講師活動に向けた会議の有無
- ・本研修受講後の活動内容
- ・本研修受講者の活用状況
- ・本研修受講の効果
- ・地域での研修会開催や講師活動における課題

<回収率>

- ・看護師139名（88.0%）、行政職員48名（88.9%）

【事業成果】

受講後の活動成果

①学んだことを活かした研修会の企画・運営ができた

- ・研修会企画のノウハウを、自地域の研修会企画に役立てることができた
- ・研修企画や開催にあたり、本研修を受けた看護師を活かすことができた
- ・講師人材に必要な要素を理解でき、講師選定の際に役立てることができた

②地域の実情に沿った研修会を企画・開催できた

- ・自地域の課題が明確になり、今後の課題が共有できた
- ・地域の状況や課題・ニーズ等を把握した上で、具体的な研修を企画することができた

③地域の中の関係機関のネットワークができた

- ・行政担当者や、関係団体、他訪問看護ステーションの方と繋がりができた
- ・地域の核となる人材を知る良い機会となった
- ・本研修の過去の受講者と協力して活動できた
- ・地域の訪問看護ステーション等連携会議の企画や訪問看護ステーション等の研修会を企画することができた

好事例のまとめ

フォローアップ調査の中で、本研修受講後に効果的な活動を実践している地域を3事例選定し、パワーポイントで報告を受け、事例ごとに地域の現状・研修会開催の過程・成果や課題について整理した

- 効果的に研修会の企画・運営ができる訪問看護人材を育成する研修会の開催
- 地域連携システムの構築ができる訪問看護人材を育成する研修会の開催
- 訪問看護人材の確保と質の向上のための研修会の開催

研修会開催までの流れ

地域の状況

- 人口約192.4万人(2021年1月)
- 新規開設の訪問看護ステーションが急増
(2016年159事業所→2020年211事業所)
- 2017年7月に群馬県訪問看護事業所支援事業として以下を実施
 - ・訪問看護技術等の実施支援
 - ・相談支援
 - ・勉強会等の開催

研修に関する現状把握

- 県看護協会・県訪問看護連絡協議会・県訪問看護事業所支援ステーション・看護系大学・県・市町村などが多彩な研修会を開催している
- 類似した研修が繰り返し開催されたり、同時期に同内容の研修が開催されることなどがあるなどの課題がある

要因分析

- 研修企画のノウハウが乏しい
- 研修の効果を検証していない
- 研修の評価が活かしていない

課題解決の方策

- 研修の開催主体となる者が研修の企画や評価について学ぶ
- 研修の開催主体となり得る県看護協会・県訪問看護連絡協議会・県訪問看護事業所支援ステーションが、研修企画や役割分担について話し合いの機会をもつ

主要組織・事業所が協働し、充実した訪問看護人材の育成へ

地域のニーズ

体系的な研修体制を作り、訪問看護人材の希望する研修が効率的・効果的に提供されること

成果・課題

- **成果**
 - ・参加者が研修に関する基礎的知識を理解し、今後主催者として活かせる機会を作ることができた
 - ・事前に県と本研修受講者として役割分担を明確にしたため、県が研修開催の運営を行い、本研修受講者は研修の企画や講師との連携に注力したことで、スムーズに実施できた
- **課題**
 - ・感染予防の観点から対象者を限定したため、希望者に研修の機会を準備することができなかった
 - ・県看護協会、県連絡協議会、支援ステーションの研修における役割分担まで検討ができず、研修の企画・運営等において連携できなかった

研修会の開催

- **日時**: 2021年2月20日(土)14:00~15:40
- **テーマ**: 学ぼう! 訪問看護研修会の企画・実施・評価~育てよう! ぐんまの訪問看護師
- **目的**: 研修の企画・運営に関する基礎的知識を理解し、継続的に効果的な研修を実施する
- **内容・方法**: 看護系大学教員による講義とグループワーク
- **参加者**: 当日会場10名+後日オンラインにて配信予定
- **受講後アンケートの実施**

研修会の内容の検討

- **研修の目的の設定**
継続的に効果的な研修が開催できる
- **研修の目標の設定**
 - ・研修の企画・実施・評価に関する知識を得る
 - ・主要組織・事業所が研修における役割分担ができる
- **対象者の決定**
県看護協会・県連絡協議会・支援ステーション・過年度の本研修受講者 20人程度
- **日程調整**
2021年2月の土曜日
- **講師の選定と依頼**
看護教育学・訪問看護に精通した講師
- **役割分担**
 - ・県(主催): 費用負担・講師との連絡・会場確保と準備・案内送付・アンケート作成集計・資料準備
 - ・本研修受講者: 講師手配・講師に企画案提出

地域連携システムの構築ができる訪問看護人材を育成する研修会の開催 ～災害発生や新興・再興感染症流行時の訪問看護ステーション間の連携システムの構築～

地域の状況

- 全国と比較して高齢化率が高く、今後、要介護認定者数や医療処置を必要とする在宅患者数が増加していく見込み
- 県内の訪問看護ステーション数は120か所(看護職員数は744人)であり、訪問看護ステーションのうち7割以上が少規模事業所(看護職員5～7.5人)(2019年4月)

研修会開催までの流れ

連携に関する現状把握

- 平時の訪問看護ステーション間の連携は個別の事業所間の関係性によるもので限定的である
- 有事における支援体制等の連携のしくみについて、地域で検討したことがない

要因分析

- 有事の際、訪問看護ステーション間が連携し、支援する体制が整っていない
- 訪問看護ステーション間の連携や相互支援が平時からあまりできていない
- 平時の連携状況を災害時等に活用可能か等の検証をしていない

課題解決の方策

- 訪問看護ステーションの管理者が有事の際、事業所間の連携の必要性を理解し、地域の現状及び行政の方向性を把握する
- 訪問看護ステーションの管理者が先進事例について学び、自施設の取り組みの参考にする
- 地域の訪問看護ステーション間の具体的な連携体制につながる検討の場を持つ

地域のニーズ

訪問看護ステーション間の連携システムを構築し、災害時やパンデミック時等でも利用者に継続的に訪問看護を提供できるようにすること

災害と感染症発生時における訪問看護ステーション間の連携システムを構築できる訪問看護人材の育成へ

成果・課題

- **成果**
 - ・各支部の取り組みに差はあるが、研修会の受講をきっかけに、県全域で同じ目標に向けたシステム構築に取り組めた
 - ・県看護協会訪問看護支援センター職員と協働したことにより、スムーズな開催について参考になった
- **課題**
 - ・災害発生や新興・再興感染症流行時に向けた地域の連携システムの構築だけではなく、実際にシステムとして機能させることが目標であるため、引き続き、地域での具体的な取り組みが続けられるよう積極的な発信などの働きかけをしていく必要がある

研修会の開催

- **日時**: 2020年12月5日(土)9:30～12:30
- **テーマ**: 滋賀県訪問看護ステーション同士の災害・感染対策における連携を考える
- **目的**: 災害発生や新興・再興感染症流行時においても利用者が安心して在宅生活が送れるよう訪問看護ステーション同士が連携し、継続した訪問看護の提供ができる地域の連携システムを考える
- **内容・方法**:
 - ＜集合研修とZOOM配信＞
 - ・地域での取り組みの経過と課題の発表3題
 - ・社会資源の状況や他団体の動き、県の応援事業について(県)
 - ＜支部ごとにグループワーク＞
 - ・上記受講後、支部長が主となり、システム構築に向けての話し合いを行う
- **参加者**: 管理者・看護職員(リーダークラス)・理学療法士等 100名程度

研修会の内容の検討

- **研修の目的の設定**
 - 災害発生や新興・再興感染症流行時に対する訪問看護ステーション間の連携体制について、実現可能なシステムの構築のための具体的方策に向けて学べる
- **研修内容の設定**
 - ・県内の各地区支部で取り組んでいる現状を共有するため、取り組みが進んでいる地域からの発表をする
 - ・行政の動きを知るために県から説明を受ける
 - ・研修後、各支部内で、取り組みを進めていくための話し合いの機会を作る
- **対象者の決定**
 - 訪問看護ステーションの管理者
- **日程調整**
 - 2020年12月の土曜日
- **講師の選定と依頼**
 - 取り組みの発表者3名、県職員

訪問看護人材の確保と質の向上のための研修会の開催

～「新卒訪問看護師育成事業」の成果報告会を活用して～

地域の状況

- 訪問看護ステーション数167か所(2021年3月)
- 訪問看護ステーション及びサテライト未設置自治体7か所/27市町村
- 訪問看護ステーションの規模
 - ・看護職員平均常勤換算数5.2人
 - ・3人未満22.8%、3～5人未満37.5%
- 訪問看護師数943人(2020年4月)
 - ・年齢:40～50歳代65.2%、60歳以上11.4%
- 新任訪問看護師の採用112人(2019年度)
- 平成27年度～「岡山県新卒訪問看護師育成事業(県補助)」開始
- 令和2年4月「岡山県看護協会訪問看護総合支援センター」設置

研修会開催までの流れ

訪問看護人材の確保・定着に関する現状把握

- 新卒訪問看護師育成により、
 - ・新卒者の受け入れにチャレンジするステーションが増加している
 - ・新卒者の育成をサポートする指導者、管理者、スタッフ間に新卒育成に前向きな風土が醸成されてきている
- 若い世代に向けた人材の確保策はまだ不十分である

要因分析

- 訪問看護ステーションの管理者、看護教員や実際に就職する看護学生に事業の取り組みや成果等について十分に理解が得られていない

課題解決の方策

- 新卒訪問看護師育成事業の継続及び積極的な運用により、更なる訪問看護人材の確保と資質向上を図る(事業内容)
 - ・訪問看護人材育成プログラムの作成
 - ・新卒訪問看護師事業及びプログラムの広報活動
 - ・新卒者と訪問看護ステーションのマッチング
 - ・新人看護職員研修、訪問看護基礎研修、訪問看護師養成講習会の開催
 - ・学習支援者会議や指導者交流会の開催
- 成果報告会を関係者の理解促進等に活用する
- 成果報告会に講師人材養成研修受講者を活用し、講師としての経験の場を創設する

地域のニーズ

若い世代の訪問看護の人材確保・定着に向けた取り組みを速やかかつ継続的に進められること

新卒訪問看護師育成事業の参加者・参加施設を増やし、更なる新卒者育成の土壌の醸成へ

成果・課題

● 成果

- ・新卒者が、発表資料の作成により、2年間を振り返ることができ、今後の課題や取り組みを明確にできた
- ・次年度「新卒訪問看護師育成事業」参加予定の学生が、訪問看護分野での新卒者の成長過程をイメージでき、不安を軽減できた
- ・WEB参加を可能にしたことで、他県の新卒訪問看護師育成事業を担当している教員と情報共有ができ、また岡山県への就職希望者へのPRにつながった

● 課題

- ・病院の看護部長、訪問看護ステーション管理者の参加を促し、新卒訪問看護師育成やサポート体制について共有する必要がある

研修会の開催

- 日時: 2021年2月24日(水) 13:30～16:00
- テーマ: 令和2年度新卒訪問看護師育成事業成果報告会
- 目的: 新卒訪問看護師育成事業成果報告会で成果を共有し、研修参加者・参加施設を増やす
- 内容・方法:
 - <看護会館での集合研修及びWEB研修>
 - ・新卒訪問看護師育成事業について
 - ・新卒者・指導者による成果報告各2題
 - ・質疑応答・意見交換
 - ・人材育成力強化担当者から応援メッセージ
 - ・令和3年度新卒訪問看護師育成事業について
- 参加者: 施設代表者、訪問看護ステーションのプリセプター、看護教員、学生 30人

研修会の内容の検討

- 研修の目的の設定
 - 新卒訪問看護師育成事業成果報告会で成果を共有し、事業の参加者・参加施設を増やす
- 研修内容の設定
 - ・事業説明/新卒者・指導者による成果報告/質疑応答/意見交換/応援メッセージ/令和3年度事業の概要
- 対象者の決定
 - 施設代表者、訪問看護ステーションの指導者、看護教員、学生等
- 日程調整
 - 2021年2月
- 講師の選定と依頼
 - 講師人材養成研修受講者、新卒者、指導者、人材育成力強化担当者